

# 評価調査結果要約表

## 1. 案件概要

- 国名：シリア
- 案件名：乾燥地における水管理及び効率的な水利用
- 分野：農業／研修
- 協力形態：第三国研修
- 所轄部署：農村開発部
- 協力金額総計：37,811,445円  
研修員一人あたり金額：547,995円  
日本の支出比率：50%
- 協力期間（R/D）：2002年度～2004年度  
（延長）：  
（F/U）：  
（E/N）（無償）
- 先方関係機関：国家企画庁、国際乾燥地農業研究センター（ICARDA）
- 日本側協力機関：なし
- 他の関連協力：第三国研修「穀物改良と種子テクノロジー」実施中（2004年度-2008年度）、協力隊員（農業土木）1名派遣中

### 1-1 協力の背景と概要

2001年、シリア国政府はシリアのアレッポに位置するICARDAに蓄積されてきた研究成果及び知見を活かし、乾燥地・半乾燥地というシリアと同種の地理的条件を有する各国に対して持続可能な農業を実現するために必要とされる能力開発を目的とした第三国研修の実施を日本に対して要請した。

### 1-2 協力内容

本案件は、CWANAと称される中央アジア・西アジア・北アフリカ地域からの参加者に対し、農業における効率的な水利用のあり方について理論と実技双方の面から研修を行うものである。

#### （1）到達目標

##### 1) 到達目標1

研修参加者が、農業における効率的な水利用のあり方について、計画・デザイン、実施、管理、分析、研究報告等一連の活動ができる能力を身につけるようになる。

##### 2) 到達目標2

研修参加者が、参加各国における農業水利用の最新の状況について理解する。

#### （2）投入（評価時点）

日本側：

- 短期専門家派遣 1名
- 研修諸費用ローカルコスト負担 19百万円

総額 38百万円

相手国側：

- 施設提供、講師提供
- ローカルコスト負担 19百万円

## 2. 評価調査団の概要

調査者：

JICAシリア事務所

Dr.Abdel Nasser Al Darir、アレppo大学農学部、コンサルタント

調査期間：

2004年12月22日～2005年3月21日

評価種類：

終了時評価

### 3. 評価結果の概要

#### 3-1 実績の確認

実施機関、シリア国政府、JICAはそれぞれの責務を果たし、案件を実施した。本件によって21カ国からの参加者69名が、理論・実技両方の面からアプローチした研修を受講することができ、これにより案件の目標は達成された。

#### 3-2 評価結果の要約

##### (1) 到達目標達成度

R/Dに掲げられているプロジェクト目標が指標値を伴っておらず、目標達成度を明確に比較することが難しいものの、3年間の研修を通じ、当初の目標は概ね達成されたものと考えられる。調査の結果、参加者の9割以上が研修の内容を価値あるものだったとして評価していることが判明しており、また異なる国からの参加者間で交流することにより経験や知識を分かちあえたことは貴重な体験であったとされている。

##### (2) 妥当性

ICARDAはCWANAにおける農業のあり方について研究を重ねている組織であり、CWANAからの参加者を対象とした本研修はCWANAの開発方向性に合致し、また研修員のニーズにも沿ったものであり妥当性があったものと評価される。

#### 3-3 効果発現に貢献した要因

##### (1) 計画内容に関すること

- 研修のテーマが根本的・基礎的課題に関することであり、ニーズの高いものであった。
- 研修教材等は理論的な内容とともに実際的な内容を含んでおり、参加者の理解を促進した。

##### (2) 実施プロセスに関すること

- ICARDAによって用意された研修環境（施設、カリキュラム、講師等）が良好なものであった。
- 各コースの終わりにはICARDA側が評価会を実施し、次回の研修に備えた。

#### 3-4 問題点及び問題を惹起した要因

##### (1) 計画内容に関すること

- GIの配布から応募、受入確認までのプロセスが遅れることがあり、十分な数の応募者に情報が行き渡らなかった恐れがある。
- 研修の全体期間の長さに対して各教科の時間がやや短すぎる傾向にあった。
- 実技にかかる時間が理論にかかる時間よりも短かった。
- 参加者のプロフィールが多岐にわたっていたため、全員の要望を十分に汲み取ることが難しかった。

- R/Dに書かれた目標及び指標値が明確でなかった。

## (2) 実施プロセスに関すること

- 理論と実技の内容が相互にリンクしていない科目も一部にあった。
- 参加者中には英語能力が十分でない者もいた。
- 実技教科への参加者数が多すぎる科目もあった。

## 3-5 結論

水利用の課題は対象国（CWANA）における重要なテーマであり、またICARDAは世界標準の技術力を有する機関であるため、ICARDAによって準備された研修内容は参加者のニーズに合致したものであった。研修成果も参加者が各国にて活用することができるものとなっており、本案件は当初の目標を達成したものと評価される。

## 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

- GIの配布等の手続きについて、余裕を持って実施すること。
- 到達目標についてはより明確に定義づける必要がある。
- より実技を重んじるカリキュラムが望まれているため、これを取り入れた内容を検討する。
- CWANA内での交流を促進する。
- 日当が少なかったとの声も聞かれるため今後検討する。
- 応募者の年齢制限を40歳までに拡大すべきである。
- コンピュータールームを充実させる。

## 3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

- 対象者の専門性をより特化させ、それらに集約した形の研修を検討する必要がある。
- JICAは案件の情報提供に対しより積極的に関与すべきである。
- 応募勧奨から受入までのプロセスには時間的余裕を考慮する必要がある。

## 3-8 フォローアップ状況

本案件の直接的なフォローアップではないものの、同じくICARDAにおける第三国研修として「穀物改良と種子テクノロジー」を実施中である。